

第9回日本言語聴覚士協会総会・日本言語聴覚学会

テーマ：言語聴覚療法の最前線

会 期：2008 年 6 月 21 日(土)・22 日(日)

会 場：栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市本町 1-8 JR宇都宮駅西口下車 バスで県庁前下車徒歩 3 分)

会 長：藤田 郁代(国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科)

ご挨拶

藤田 郁代

第9回日本言語聴覚士協会総会・日本言語聴覚学会は宇都宮市で開催され、国際医療福祉大学言語聴覚学科が企画運営を担当させて頂くことになりました。学会のテーマは「言語聴覚療法の最前線」といたしました。

「言語聴覚障害学(言語病理学)」という新しい学問が誕生してからまだ100年も経過していませんが、近年、本分野の学問の進展には目覚ましいものがあります。特に、健全なコミュニケーション過程の究明と各種言語聴覚障害の発生メカニズムの解明が進み、それに基づく評価法、訓練・指導法、援助法の開発が各側面から行われています。臨床においては摂食・嚥下障害、認知症、高次脳機能障害、学習障害など言語聴覚療法の対象が拡大し、新たな臨床技術が確立してきました。また、わが国では少子高齢化の進行や社会状況の変化に伴い、医療・福祉・教育制度の変革が急ピッチで進められており、それに応じて、従来とは異なる新しい専門的サービス提供のあり方が追求されています。

言語聴覚障害学分野の地平の拡大は今後も続くと思いますが、それを実質的なものにするには最前線で新たな知と技の産生を行うと同時に、その客観性、科学性を検証し、普遍性のあるエビデンスや研究成果を残していく作業が重要です。残念ながら、本分野では新しい知と技の産生の速度に科学的検証が追いついていけないという状況があります。また、得られたエビデンスや研究成果の臨床への活用も十分でなく、臨床現場と研究成果の活用との間にはギャップがあります。質の高い臨床を行うには臨床と研究のギャップを埋めることが必要であり、本

学会がこのような役割を担えるよう尽力したいと思います。

今回は、英国から認知神経心理学研究の第一人者である Karalyn Patterson 教授と Matthew A. Lambon Ralph 教授を招待し、意味と記憶に関する最前線の研究成果を講演して頂きます。教育講演には、韓国ナザレ大学で言語聴覚士教育に携わり、韓国言語聴覚士協会の理事である Mi-sun Yoon 教授をお招きし、「韓国における言語聴覚療法・言語聴覚士教育の現状と課題」についてお話し頂きます。

シンポジウムは、「脳病変による談話障害へのアプローチ」と「テクノロジーの進歩と聴覚臨床」の2企画を用意し、最前線の研究成果やテクノロジーをいかにして臨床に活用するかについて討議して頂きます。セミナーは、「学童期の言語の問題」と「摂食嚥下障害領域の研究・臨床 Up to Date」を企画しています。

そのほか、協会主催の生涯学習講座、学生を対象としたセミナー、ランチョンセミナーなどを開催いたします。更に、作家の柳田邦男氏をお招きして市民公開講座を開催し、「心が通い合うコミュニケーションとは」についてご講演頂く予定です。

会場となる栃木県総合文化センターは宇都宮市の中心部に位置し、県内には世界遺産として有名な日光、那須高原、松尾芭蕉の「奥の細道」ゆかりの黒羽の里など美しい自然と文化遺産が多くあります。また、鬼怒川温泉、塩原温泉、那須温泉などを有し、学会以外のお時間もお楽しみ頂けると思います。

本学会への皆様のお越しを心よりお待ちしております。

《プログラム》

■基調講演■ 言語聴覚療法の最前線—脳とコミュニケーション

藤田 郁代(国際医療福祉大学)

■特別講演■

The consistent impact of a central semantic deficit on verbal and non-verbal cognition

Karalyn Patterson, Ph. D. (MRC Cognition and Brain Sciences Unit, Cambridge, UK)

(☞次頁に続く)

The roles of different brain regions in semantic cognition: Insights from novel comparisons of semantic dementia, HSVE and semantic aphasia

Matthew A. Lambon Ralph, Ph. D. (Neuroscience and Aphasia Research Unit, School of Psychological Sciences, University of Manchester, UK)

■教育講演■ 韓国における言語聴覚療法・言語聴覚士教育の現状と課題

Mi-sun Yoon, Ph. D. (Department of Communication Disorders, Korea Nazarene University)

■シンポジウム I ■ 脳病変による談話障害へのアプローチ

シンポジスト：小坂 美鶴(川崎医療福祉大学 感覚矯正学科)

本多 留美(広島県立保健福祉大学 コミュニケーション障害学科)

相馬 有里(東京都立豊島病院 リハビリテーション科)

坂本 佳代(川口市立医療センター リハビリテーション科)

司 会：浮田 弘美(大阪大学付属病院 リハビリテーション科)

吉畑 博代(県立広島大学 コミュニケーション障害学科)

■シンポジウム II ■ テクノロジーの進歩と聴覚臨床

シンポジスト：福島 邦博(岡山大学医学部 耳鼻咽喉科学教室)

高橋 信雄(愛媛大学 教育学部)

北川 可恵(札幌肢体不自由児総合療育センター)

中村 公枝(国立身体障害者リハビリテーションセンター学院)

司 会：廣田 栄子(筑波大学大学院 人間総合科学研究科)

城間 将江(国際医療福祉大学 言語聴覚学科)

■セミナー I ■ 学童期の言語の問題

大石 敬子(明治学院大学), 田中 裕美子(国際医療福祉大学 言語聴覚学科)

■セミナー II ■ 摂食嚥下障害領域の研究・臨床 Up to Date(仮題)

岡田 澄子(藤田保健衛生大学 リハビリテーション科)

■学生セミナー■ 臨床実習を効果的に受けるには

■ランチョンセミナー■

6月21日：3講演(嚥下障害, 音声障害), 6月22日：2講演(嚥下障害, 聴覚障害)

■市民公開講座■ 心が通うコミュニケーションとは 柳田 邦男氏(作家)

■生涯学習講座■ 基礎講座 言語聴覚療法の動向, 協会の機構と役割, 臨床業務のあり方・進め方 専門講座 臨床実習

《事務局より》

学会本番まで、いよいよ3か月となりました。今回は、詳細なプログラムもお届けできることとなりました。学会準備も佳境に入り、参加される皆様にとりまして有意義で快適な学会となりますよう、スタッフ一同入念に取り組んでおります。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

事前申し込み受付中

本学会では、事前受付を実施しています。学会ホームページから申し込んでいただくこととなります。事前に参加を申し込みますと、参加費が割引されます。また、ランチョンセミナー、懇親会、宿泊も合わせて申し込んでいただくことが可能です。ランチョンセミナー、懇親会は定員になりましたら、申し込みを終了させていただきます。早めの申し込みをお願いいたします。詳しくは第9回日本言語聴覚学会ホームページをご覧ください。 <http://square.umin.ac.jp/jas9th/>